

好評発売中

病害防除剤

農林水産省登録 第24002号

兼商 クプロシールド

有効成分：塩基性硫酸銅・・・26.9%（銅として14.8%）

FRAC：M1

剤型：フロアブル

毒性：一（毒劇物に該当しない）

クプロシールドは株式会社エス・ディー・エス バイオテックの登録商標

盾で守る無機銅フロアブル！

薬剤の特長

- ① 細かい粒子で優れた効果！
- ② 使いやすく、汚れが少ない！
- ③ 収穫前まで使える！（茶を除く）
- ④ 使用回数のカウントなし！
（有機JAS適合資材）



詳しい製品情報は
こちらから
ご確認ください。



アグロ カネショウ株式会社

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	銅を含む農薬の総使用回数
野菜類	軟腐病	1000 ～ 1500 倍	100 ～ 300 ℓ /10a	発病前～発病初期	—	散布	—
	べと病、斑点細菌病	1000 ～ 2000 倍		発生前～発生初期			
	ナメクジ類	1000 倍					
トマト、ミニトマト	疫病	1000 ～ 2000 倍		発病前～発病初期			
	葉かび病、かいよう病 すずかび病	1000 倍					
はなやさい類	黒斑細菌病、花蕾腐敗病	1000 ～ 2000 倍					
にら	白斑葉枯病	1000 倍					
結球あぶらな科葉菜類	黒腐病、黒斑細菌病	1000 ～ 2000 倍					
レタス類	腐敗病	1000 倍					
しそ	斑点病						
にんじん	黒葉枯病、斑点病						
たまねぎ、葉たまねぎ	りん片腐敗病						
あずき	褐斑細菌病						
だいず	紫斑病						
ごま	うどんこ病、斑点細菌病						
アスパラガス	斑点病、茎枯病	100 ～ 400 ℓ /10a					
こんにゃく	葉枯病、腐敗病	500 ～ 1000 倍					
やまのいも	葉渋病	1000 倍					
てんさい	褐斑病	16 倍	1.6 ℓ /10a				
ばれいしょ	軟腐病	1000 倍	100 ～ 300 ℓ /10a				
		32 倍	3.2 ℓ /10a				
	疫病	1000 ～ 2000 倍	100 ～ 300 ℓ /10a				
		32 倍	3.2 ℓ /10a				
かんしょ	基腐病	16 倍	1.6 ℓ /10a				
		32 倍	3.2 ℓ /10a				
		100 ～ 300 ℓ /10a					
りんご	すす点病、すす斑病 褐斑病、輪紋病	1000 倍	200 ～ 700 ℓ /10a				
もも、ネクタリン	せん孔細菌病						
小粒核果類	かいよう病						
ぶどう	べと病						
かんきつ	かいよう病	1000 ～ 2000 倍					
	黒点病、そうか病	1000 倍					
	ナメクジ類、カタツムリ類						
キウイフルーツ	かいよう病	500 ～ 1000 倍					
オリーブ、オリーブ（葉）	炭疽病						
つつじ類	褐斑病	1000 倍		200 ～ 400 ℓ /10a			
茶	赤焼病、もち病 網もち病						
	炭疽病		500 ～ 700 倍				

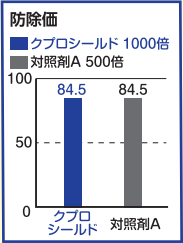
**はくさいにおける
汚れ比較試験**
アグロカネショウ社内試験
品種：秋めき 定植日：平成29年9月3日
薬剤散布：9月22日 調査：9月22日（散布 3時間後）



■試験結果

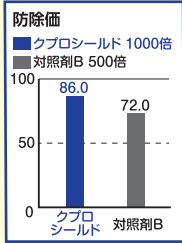
はくさい 軟腐病に対する効果

- 平成25年度
青森県産業技術センター
農林総合研究所
- 品種 夏時50日
- 発生状況 中発生
- 定植 6/18
- 処理 6/28、7/7、7/14、
7/21、7/29 計5回
各200～300ℓ/10a量を
背負式動力噴霧器にて散布。
- 調査 8/5に各区46株について
発病程度別株数を調査し、
防除価を算出。



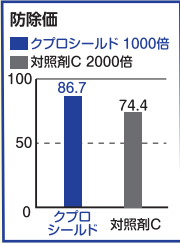
茶 赤焼病に対する効果

- 平成26年度
静岡県農林技術研究所
茶業研究センター
- 品種 やぶきた4年生
- 発生状況 少発生（接種）
- 処理 3/2、4/00ℓ/10a相当量
を動力噴霧器にて散布。
4/2、各区内の発病葉の
全葉を調査した後、1㎡
当りの発病葉数に算出。
- 調査



かんきつ かいはよう病に対する効果

- 平成25年度
神奈川県農林技術センター
- 品種 レモン（アレンユーレカ）
- 発生状況 中発生
- 樹齢 24年生
- 処理 4/22、5/27、6/17、
1樹あたり5ℓを動力噴霧器
にて立木全面散布。
7/12に1樹あたり100葉に
ついて発病程度別に葉数を
算出。
- 調査



△ 効果・薬害等の注意

- 本剤は貯蔵中に分離することがあるので、使用に際しては容器をよく振ってください。
- 石灰硫黄合剤等アルカリ性薬剤との混用はさけてください。
- 本剤を無人航空機による散布に使用する場合は、次の注意を守ってください。
- ①散布は各散布機種の散布基準に従って実施してください。
- ②散布にあつては、散布機種に適合した散布装置を使用してください。
- ③散布機が濡れないように機体の散布用配管その他散布装置の十分な点検を行ってください。
- ④散布薬液の飛散によって動植物及び自動車の塗装等へ影響を与えないよう散布地域の選定に注意し、
散布区域内の諸物件に十分留意してください。
- ⑤散布終了後、機体の散布装置は十分洗浄し、薬液タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理してください。
また使用後の空の容器は放置せず、安全な場所に廃棄してください。
- ⑥特定の農薬（混用可能が確認されているもの）を除いて原則として他の農薬との混用は行わないでください。
- みずいも、みずかけな（水掛菜）、せり、クレソン、くわい、じゅんさい、ひし、まこもたけ、れんこん及びわさびに
使用する場合は、ほ場内に水がない状態で使用してください。また、使用後14日間は入水しないでください。
- キャベツ、はくさい、レタス等結球作物を対象に使用する場合は、結球期以降の散布は薬害を生じるお
それがあるので、結球初期までに散布してください。
- さやうり等ウリ科作物に使用する場合は、次の事項に十分注意してください。
- ①幼苗期は薬害を生じやすいので、生育中期以降に散布してください。
- ②高温時での散布は薬害が生じやすく、症状が強くなることもあるので散布はさけてください。
- ブロッコリー及びカリフラワー等はなやさい類に使用する場合は、花蕾形成期以降の散布は花蕾に薬害
を生じるおそれがあるので、使用の際には注意してください。
- ごまに使用する場合は、軽度の薬害（茎、さや等の褐色小斑点）を生じることがあるが、その後の生育
及び収穫物に対する影響は認められていません。
- ナメクジ類、カタツムリ類に使用する場合は、忌避作用が主であるため予防的に散布してください。
- かんきつに使用する場合は、薬害を生じるおそれがあるので、発芽期以降は炭酸カルシウム水和剤を加
用することが望ましいです。

- キウイフルーツに使用する場合は、薬害を生じるおそれがあるので、次の事項に十分注意してください。
- ①発芽期以降の散布には炭酸カルシウム水和剤を加用してください。
- ②過度の連用はさけてください。
- ③品種によっては薬害を生じることがあるので事前に確認してから使用してください。
- もも、ネクタリンに使用する場合は、開花後は葉に薬害を生じるおそれがあるので、炭酸カルシウム水
和剤を加用してください。
- 小粒核果類に使用する場合は、葉芽発芽期以降は葉に薬害を生じるおそれがあるので、炭酸カルシウム
水和剤を加用してください。
- りんごに使用する場合は、薬害を生じるおそれがあるので、炭酸カルシウム水和剤を加用することが望
ましいです。
- ぶどうに使用する場合は、薬害を生じるおそれがあるので、炭酸カルシウム水和剤を加用することが望
ましいです。また、果房の汚れを生じるので、無袋状態での使用は注意してください。
- 蚕に対して影響を及ぼすおそれがあるので、養蚕で使用する桑葉にからないようにしてください。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に
薬害や作物への汚れの有無を十分確認してから使用してください。なお、病害虫防除等関係機関の指
導を受けることが望ましいです。

△ 安全使用上の注意

- 本剤は眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないように注意してください。眼に入った場合には直
ちに水洗してください。
- 街路、公園等を使用する場合は、散布中及び散布後（少なくとも散布当日）に小児や散布に関係のない
者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう
注意してください。

魚 毒 性… 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使い切ってください。散布器具及び容器の洗浄水
は、河川等に流さないでください。また、空容器は水陸動植物に影響を与えないよう適切に処理し
てください。

保 管… 密栓し、直射日光を避け、食品と区別して冷涼な所に保管してください。

●使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●本剤は小児の手の届く所には置かないでください。